

シラバス

教 科	科 目	単位数	学 年	コ ー ス	組
国 語	現 代 文 探 究	3	2	CST	12組

教 科 書	『精選 文学国語』（三省堂）	副 教 材	『新訂総合国語便覧』（第一学習社）
			『上級入試漢字』（桐原書店）ほか

科 目 の 目 標	<p>(1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し、適切に使うことができるようにする。</p> <p>(2) 社会生活における他者との関わりのなかで伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。</p> <p>(3) 言語感覚を磨き、言語文化の担い手としての自覚を持ち、国語の能力向上を図る態度を養う。</p>
-----------------------	--

科 目 の 概 要	<p>「現代の国語」「言語文化」により育成された資質・能力を基盤として、創造的・論理的思考の力を伸ばしつつ、他方で人の心の機微にふれ、日常の生活を見つめなおす契機として重量な役割をはたす文学的文章の学習を通して、感性や情緒、共感力、表現力の育成をあわせて行い、全般的な言語運用力を伸ばす科目である。</p>
-----------------------	---

観点別評価			
3 観 点	○「知識・技能」	○「思考力・判断力・表現力」	○「主体的に学びに向かう態度」
10 の 力	①「知力・学力」 ⑥「受信・発信力」 ⑨「自己管理能力」	②「課題適応力」 ③「論理的思考力」 ④「原因分析力」 ⑤「傾聴力」 ⑥「受信・発信力」	②「課題適応力」 ⑦「協働力」 ⑧「行動力」 ⑨「自己管理能力」 ⑩「自己実現力」
観 点 の 評 価	○言葉には、認識や説明を可能にし、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解したか。 ○表現を通じて、語感を磨き、語彙力を豊かにできたか。 ○文章の種類・特徴や技法について、体系的に理解しているか。 ○読書の効用と意義について、理解を深められたか。	○読み手の関心を引き出す文章表現・文体・修辞の工夫ができているか。 ○作品の語りや構成等に注意して、内容の解釈ができているか。 ○多角的な視点から自分の考えを見直し、根拠や論拠の吟味を重ねて、主題や主張を明確に理解、表現したか。 ○文章の解釈を通じて、人間、社会、自然などへの洞察を深められたか。	○社会的な話題や文学作品について、評価し、他者の考えを参考にしながら、論述したり討論したりすることができたか。 ○先行する研究や作品を参考に、様々な観点を示したり、創作したり、批評したりできたか。 ○社会的な事柄や文学的事象について調べるなどして、成果を発表したり、まとめたりすることができたか。
評 価 の 方 法	○定期試験 ○授業内活動 ○課題への取り組み・提出状況 以上をふまえて、学期末・学年末の総合成績をもって評価する。	○定期試験 ○授業内活動 ○課題への取り組み・提出状況 以上をふまえて、学期末・学年末の総合成績をもって評価する。	○授業内・外での学習活動等 ○課題への取り組み・提出状況 以上をもとに、学期末・学年末の平常点で評価する。

学 習 計 画		
学期	学 習 内 容 (単 元)	単 元 別 学 習 目 標
1 学 期	◇小説の言葉・詩の言葉—文学国語へのいざない 蜂飼 耳「詩はいつでも近いところにある」 ◇詩歌 谷川俊太郎「今日」、新川和江「私を束ねないで」 田村隆一「帰途」 ◇問題集演習・小テスト・授業内課題等 【1学期 中間試験】 5月20日～23日	○詩の言葉の特徴を理解する。 ○表現形式や修辞の効果に着目し、それぞれの詩の理解を深める。 ○社会的な事柄と文学的表現とのつながりを意識しながら、作品を読み解く。 ○近代から現代にかけての詩の展開について学習し、その文学的・文化的意義を理解する。
	◇小説 中島 敦『山月記』 ◇問題集演習・小テスト・授業内課題等 【1学期 期末試験】 7月1日～5日	○会話と地の文の関係に着目して、人物像を把握する。 ○語りや文体が小説の内容や解釈に与える影響を理解し、自らの表現に役立てる。 ○昭和期（戦前・戦中・戦後）の文学史について学習し、その文学的・文化的意義を理解する。
2 学 期	◇戯曲の言葉 井上ひさし／平田オリザ「戯曲の中の『対話』」 永井 愛『戯曲 書く女』 ◇問題集演習・小テスト・授業内課題等 【2学期 中間試験】 10月15日～18日	○芝居の台詞と日常会話、戯曲の対話と小説の会話の違いを理解する。 ○読み合わせを通して戯曲の言葉の特徴を理解する。
	◇小説 夏目漱石『こころ』（前半） ◇問題集演習・小テスト・授業内課題等 【2学期 期末試験】 12月2日～6日	○小説の形式や表現の特色に留意して、登場人物の言動や心情を理解する。 ○語りや文体が小説の内容や解釈に与える影響を理解し、自らの表現に役立てる。 ○同時代の社会状況や習慣への理解を深め、自分たちのありようを相対的に捉える。 ○明治期から大正期の文学史について学習し、その文学的・文化的意義を理解する。
3 学 期	◇小説 夏目漱石『こころ』（後半） ◇詩歌 「木に花咲き 短歌十五首」 【3学期 学年末試験】 3月4日～8日	○小説の形式や表現の特色に留意して、登場人物の言動や心情を理解する。 ○語りや文体が小説の内容や解釈に与える影響を理解し、自らの表現に役立てる。 ○同時代の社会状況や習慣への理解を深め、自分たちのありようを相対的に捉える。 ○短歌に詠まれた情景や心情を理解する。 ○近代から現代にかけての短歌の展開について学習し、その文学的・文化的意義を理解する。